

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月14日
【四半期会計期間】	第30期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	パス株式会社
【英訳名】	PATH corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役CEO 中原 信一郎
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区神宮前六丁目17番11号
【電話番号】	03（6823）6664（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部長 梶川 量由
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区神宮前六丁目17番11号
【電話番号】	03（6823）6664（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部長 梶川 量由
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第29期 第2四半期 連結累計期間	第30期 第2四半期 連結累計期間	第29期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	1,784,919	1,365,514	3,678,558
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	26,154	79,415	5,448
親会社株主に帰属する四半期純損失 ( ) 又は親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	13,670	82,215	157,486
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	22,831	90,257	248,668
純資産額 (千円)	1,903,457	1,439,037	1,529,295
総資産額 (千円)	2,779,343	2,388,434	2,746,119
1株当たり四半期純損失 ( ) 又は1株当たり当期純利益 (円)	0.48	2.91	5.58
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益	-	-	-
自己資本比率 (%)	62.3	60.3	55.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,015	166,607	209,508
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	13,733	297,791	516,638
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	898	470,124	145,409
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	1,678,264	482,463	821,565

回次	第29期 第2四半期 連結会計期間	第30期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純損失 ( ) (円)	0.18	0.49

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、2019年4月1日より連結子会社であるBlockshine Singapore Pte, Ltd.は、仮想通貨交換業者向けカスタディ業務用管理システムであるBastionとブロックチェーン技術利用キャッシュレス推進システムに関する事業を開始しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 財政状態

##### (資産)

当第2四半期連結累計期間末における流動資産は1,656百万円となり、前連結会計年度末に比べ808百万円減少いたしました。これは主に、前払金が196百万円増加したものの、現金及び預金が789百万円、受取手形及び売掛金が115百万円、商品及び製品が101百万円それぞれ減少したことによるものです。

固定資産は732百万円となり、前連結会計年度末に比べ450百万円増加いたしました。これは主に無形固定資産が462百万円増加したことによるものです。

この結果、総資産は2,388百万円となり、前連結会計年度末に比べ357百万円減少いたしました。

##### (負債)

当第2四半期連結累計期間末における流動負債は613百万円となり、前連結会計年度末に比べ551百万円減少いたしました。これは主に、前受金が88百万円増加したものの、買掛金が211百万円、未払金が440百万円それぞれ減少したことによるものです。

固定負債は335百万円となり、前連結会計年度末に比べ284百万円増加いたしました。これは主に長期未払金が284百万円増加したことによるものです。

この結果、負債合計は949百万円となり、前連結会計年度末に比べ267百万円減少いたしました。

##### (純資産)

当第2四半期連結累計期間末における純資産合計は1,439百万円となり、前連結会計年度末に比べ90百万円減少いたしました。これは主に、四半期純損失90百万円を計上したことによるものです。

この結果、自己資本比率60.3%（前連結会計年度末は55.4%）となりました。

##### 経営成績

当第2四半期連結累計期間におきましては、ブロックチェーン関連事業において2019年4月よりカストディ業務を開始し、さらに新規事業の開発を目的に他社との業務提携も積極的に実施いたしました。一方、通信販売事業は、消費増税の駆け込み需要の恩恵を一部受けましたが、思うように新規顧客の獲得ができず第1四半期に引き続き低調な結果となりました。

これらの結果、売上高は1,365百万円（前年同四半期比419百万円減）、営業損失は74百万円（前年同四半期は17百万円の営業利益）、経常損失は79百万円（前年同四半期は26百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は82百万円（前年同四半期比68百万円増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次の通りです。

##### (通信販売事業)

通信販売事業につきましては、前期においてクレンジング商品の特需効果がありましたが、当第2四半期連結累計期間より特需効果が無くなったこと、及び自社商品である化粧品関連において、カタログ販売の伸び悩み及び店舗販売が低迷したことにより、売上高は1,249百万円（前年同四半期比535百万円減）、営業損失は20百万円（前年同四半期は88百万円の営業利益）となりました。

##### (ブロックチェーン関連事業)

ブロックチェーン関連事業につきましては、ICOコンサルティング業務はICO市場の低迷により新規の引き合いがありませんでしたが、2019年4月よりカストディ業務を開始し業容が拡大いたしました。それらの結果、売上高は116百万円（前年同四半期比116百万円増）、営業損失は14百万円（前年同四半期比9百万円増）となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ339百万円減少し482百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは166百万円の支出（前年同四半期は2百万円の支出）となりました。主な要因は、売上債権の減少114百万円、たな卸資産の減少108百万円、仕入債務の減少211百万円、前払金の増加196百万円及び税金等調整前四半期純損失85百万円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは297百万円の収入(前年同四半期は13百万円の支出)となりました。主な要因は、無形固定資産の取得による支出139百万円があったものの、定期預金の払戻による収入450百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは470百万円の支出(前年同四半期は0百万円の収入)となりました。主な要因は、連結範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出472百万円によるものです。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の金額は、2百万円です。

(6) 主要な設備の状況

該当事項はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	69,378,000
計	69,378,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (2019年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	28,240,000	28,240,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 100株
計	28,240,000	28,240,000	-	-

(注) 普通株式は完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年8月31日 (注)	-	28,240,000	2,338,187	100,000	1,136,292	1,304,896

(注) 2019年6月27日開催の定時株主総会の決議に基づき2019年8月31日付で減資を行いました。この結果、資本金が2,338,187千円減少、資本準備金が1,136,292千円減少しております。

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
Oakキャピタル株式会社	東京都港区赤坂8丁目10番24号	7,807,400	27.6
韓 震	兵庫県神戸市中央区	1,800,000	6.4
Blockchain Global Limited (常任代理人 小黒健三)	Level 1, 89-91 City Road Southbank 3006 VIC Australia (東京都渋谷区)	1,200,000	4.2
合同会社サクセスインベストメント	東京都中央区日本橋馬喰町2丁目5番12号	647,200	2.3
株式会社ジークス	東京都渋谷区渋谷1丁目20番28号	646,000	2.3
株式会社フィールドオブドリームス	東京都渋谷区渋谷1丁目19番18号	500,000	1.8
中島 貴子	大阪府大阪市平野区	348,800	1.2
依光 達郎	高知県南国市	250,000	0.9
中園 博志	大阪府大阪市住之江区	235,000	0.8
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2番10号	234,000	0.8
計	-	13,668,400	48.4

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 28,238,700	282,387	-
単元未満株式	普通株式 1,300	-	-
発行済株式総数	28,240,000	-	-
総株主の議決権	-	282,387	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、R S M清和監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,271,565	482,463
受取手形及び売掛金	478,238	362,580
商品及び製品	607,707	505,838
原材料及び貯蔵品	64,266	57,937
未収入金	1,481	1,531
前払金	-	196,128
その他	43,384	51,757
貸倒引当金	2,187	2,095
<b>流動資産合計</b>	<b>2,464,458</b>	<b>1,656,141</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	38,041	38,041
減価償却累計額及び減損損失累計額	30,883	31,490
建物及び構築物(純額)	7,158	6,550
工具、器具及び備品	204,698	182,425
減価償却累計額及び減損損失累計額	160,341	147,517
工具、器具及び備品(純額)	44,356	34,908
<b>有形固定資産合計</b>	<b>51,515</b>	<b>41,458</b>
<b>無形固定資産</b>		
のれん	69,770	64,403
ソフトウェア	1,455	88,812
ソフトウェア仮勘定	69,156	-
契約関連無形資産	-	450,322
その他	8,372	7,982
<b>無形固定資産合計</b>	<b>148,755</b>	<b>611,519</b>
<b>投資その他の資産</b>		
敷金及び保証金	77,201	77,154
繰延税金資産	3,939	1,909
その他	11,323	10,690
貸倒引当金	11,073	10,440
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>81,390</b>	<b>79,314</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>281,661</b>	<b>732,292</b>
<b>資産合計</b>	<b>2,746,119</b>	<b>2,388,434</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	417,454	205,513
未払金	683,950	243,779
前受金	-	88,992
未払法人税等	21,990	3,288
短期借入金	4,021	4,303
賞与引当金	16,136	17,750
返品調整引当金	6,011	3,981
ポイント引当金	-	22,338
その他	15,689	23,786
流動負債合計	1,165,254	613,731
固定負債		
債務保証損失引当金	51,251	51,251
長期未払金	-	284,414
その他	319	-
固定負債合計	51,570	335,665
負債合計	1,216,824	949,397
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,438,187	100,000
資本剰余金	2,095,801	959,509
利益剰余金	3,012,788	379,475
株主資本合計	1,521,200	1,438,985
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	166	51
その他の包括利益累計額合計	166	51
非支配株主持分	8,260	-
純資産合計	1,529,295	1,439,037
負債純資産合計	2,746,119	2,388,434

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	1,784,919	1,365,514
売上原価	895,037	576,438
売上総利益	889,882	789,075
販売費及び一般管理費	872,031	863,093
営業利益又は営業損失( )	17,850	74,017
営業外収益		
受取利息	7	21
債務保証損失金引当戻入額	8,328	-
その他	480	633
営業外収益合計	8,816	654
営業外費用		
支払利息	-	45
為替差損	340	5,901
その他	173	105
営業外費用合計	513	6,051
経常利益又は経常損失( )	26,154	79,415
特別損失		
固定資産除却損	-	5,901
特別損失合計	-	5,901
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	26,154	85,316
法人税、住民税及び事業税	780	3,289
法人税等調整額	2,514	2,029
法人税等合計	3,294	5,319
四半期純利益又は四半期純損失( )	22,860	90,635
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失( )	36,530	8,420
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	13,670	82,215

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	22,860	90,635
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	28	377
その他の包括利益合計	28	377
四半期包括利益	22,831	90,257
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,685	81,997
非支配株主に係る四半期包括利益	36,516	8,260

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	26,154	85,316
減価償却費	18,197	43,062
のれん償却額	5,366	5,366
貸倒引当金の増減額( は減少)	704	724
賞与引当金の増減額( は減少)	2,826	1,614
返品調整引当金の増減額( は減少)	2,732	2,030
ポイント引当金の増減額( は減少)	-	22,338
債務保証損失引当金の増減額( は減少)	8,328	-
受取利息	7	21
支払利息	-	45
固定資産除却損	-	5,901
未払法人税等(外形標準課税)の増減額( は減少)	-	274
売上債権の増減額( は増加)	17,497	114,333
たな卸資産の増減額( は増加)	11,662	108,199
仕入債務の増減額( は減少)	29,872	211,277
未収入金の増減額( は増加)	3,402	49
未払金の増減額( は減少)	10,154	38,815
前受金の増減額( は減少)	4,677	88,992
前払金の増減額( は増加)	-	196,128
その他	20,455	126
小計	493	144,909
利息の受取額	7	21
法人税等の支払額	1,529	21,718
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,015	166,607
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	880	12,507
無形固定資産の取得による支出	12,853	139,701
定期預金の払戻による収入	-	450,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	13,733	297,791
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	-	2,311
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	23,601	472,435
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	24,500	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	898	470,124
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	160
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	14,850	339,101
現金及び現金同等物の期首残高	1,693,115	821,565
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,678,264	482,463

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
賞与引当金繰入額	14,479千円	19,643千円
貸倒引当金繰入額	922	188

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	1,678,264千円	482,463千円
現金及び現金同等物	1,678,264	482,463

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2019年6月27日開催の定時株主総会における決議に基づき、2019年8月31日付で、資本金2,338,187千円及び資本準備金1,136,292千円をその他資本剰余金に振り替え、振替後のその他資本剰余金を繰越利益剰余金に振り替え、欠損の填補に充当しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において、資本金は100,000千円、資本剰余金は959,509千円となっております。

なお、株主資本合計額には、著しい変動はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	通信販売事業	ブロック チェーン関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,784,919	-	1,784,919	-	1,784,919
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,784,919	-	1,784,919	-	1,784,919
セグメント利益又は 損失( )	88,621	4,956	83,664	65,813	17,850

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額 65,813千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	通信販売事業	ブロック チェーン関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,249,269	116,245	1,365,514	-	1,365,514
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,249,269	116,245	1,365,514	-	1,365,514
セグメント利益又は 損失( )	20,810	14,759	35,570	38,447	74,017

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額 38,447千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等  
 あります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純損失	0円48銭	2円91銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失(千円)	13,670	82,215
普通株主に帰属しない金額	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失(千円)	13,670	82,215
普通株式の期中平均株式数(株)	28,240,000	28,240,000
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月14日

パス株式会社  
取締役会 御中

R S M清和監査法人

指 定 社 員  
業務執行社員 公認会計士 藤本 亮 印

指 定 社 員  
業務執行社員 公認会計士 平澤 優 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているパス株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、パス株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。